

## 2023～2027年度 北海道教育推進計画

### 基本理念 「自立」 「共生」

**施策の柱1** 子供たち一人一人の可能性を引き出す教育の推進

**施策の柱2** 学びの機会を保障し質を高める環境の確立

**施策の柱3** 地域と歩む持続可能な教育の実現

### 令和4年度 日高管内教育推進の重点

～全ての子供のよさや可能性を引き出し、持続可能で豊かな地域社会の創り手を育む日高教育の創造～

#### 重点1 育成を目指す資質・能力を確実に身に付けさせる教育課程の編成・実施

- カリキュラム・マネジメントによる組織的、計画的な指導
- 指導と評価の一体化による授業改善
- ICTの効果的な活用による指導の充実

#### 重点2 未来の日高教育を創造していく教職員の育成

- 高い専門性と実践的指導力の習得
- 新たな教育課題に対応する力の向上
- 多様な人材等と連携して課題解決に取り組む力の習熟

#### 重点3 教育活動の質の向上を図る「働き方改革」の着実な推進

- ICTを積極的に活用した校務の効率化
- 個とチームの役割を明確にした協働的な学校体制の構築
- 地域とともにある学校への転換

### 令和5年度 新ひだか町学校教育の目標と重点

#### 新ひだか町教育の基本目標

##### 町の将来を支える心豊かな人づくり

子供たちが豊かな心を持って学ぶことができるよう、よりよい教育環境づくりを進めるとともに、地域文化の保存・伝承や、生涯学習機会の確保・充実に努めながら、地域を支える人づくりを進めます。

#### 学校教育推進の重点

##### 未来に生きる力の育成

- 主体的・対話的で深い学びの推進
- 学力向上の推進
- 情報活用能力の向上
- ふるさと教育の充実
- 外国語（英語）教育の充実
- キャリア教育の充実

##### 豊かな心と健やかな体の育成

- 「特別の教科 道徳」（道徳科）の充実
- 望ましい家庭生活習慣の確立
- 体力・運動能力向上の取組の充実
- 特別支援教育の充実
- 健康安全教育の充実
- いじめ、不登校及び児童虐待等への取組の充実

##### 学校力の向上

- 学校組織の活性化
- カリキュラム・マネジメントの充実
- 学校と地域の連携の推進

##### 教育環境の整備・充実

- 学校における働き方改革の推進
- 教育委員会による支援の充実
- 町立学校の再編整備の推進
- 部活動の地域移行の推進

「北海道の教育理念」、「日高管内教育推進の重点」、「新ひだか町学校教育目標」を踏まえ、本校教育目標の具現化を図ります。そして、『一人一人の子供たちの幸せのために～「自ら」「共に」～』という基本理念のもと、予測不能な変化の激しい未来を、たくましく生き抜く力の素地を、学校・家庭・地域が一丸となって育成します。また、職員の働き方を見直し、働きがいがあり、働きやすい学校づくりを行います。さらに、「学校の新しい生活様式」に基づく新型コロナウイルス感染予防対策の徹底と教育課程の工夫による学びの保障を図ります。

## 基本理念

### 一人一人の子供たちの幸せのために ～「自ら」「共に」～

- それは子供のためになっているか、そこに教育はあるか
- 働きがいがあるか、働きやすいか

※教師の道を志した新採用の頃の気持ちを忘れてくはない。何のために教師になったのか。

※真の動機付けは内発的であるべきです。「自分の指導は子供のためになっていたのか」「もっと違うやり方がないか」「さらによくする方法はないか」「学校や同僚のために自分にできることはないか」と内へ矢印を向けたい。その謙虚な姿勢が教師を成長させる。生き生きと常に学び続ける姿勢が教師を成長させる。教師の成長は、必ず子供たちの成長につながる。

※子供に寄り添い、ありのままを受け止めることから教育は始まる。一人一人にしっかり目を向けて、その子その子の持ち味が大切にされる「みんなちがって みんないい」の姿勢を大切にしたい。

※「私たちは、子供の未来にふれている。そして、世界の未来にふれている。」そのことに誇りと自覚を持ち、一人一人の子供たちの幸せを願い、各教科等の資質・能力をどの子にも確実に定着させることを目指し、教科等横断的な資質・能力の重点を定め教職員同士の協力体制を確立し、職務にあたりたい。

※自ら考え行動し、多様な仲間と共に新しい時代を創る子供たち。新学習指導要領や北海道教育基本理念を踏まえ、「自ら、共に」を大切にした教育活動を全職員が一枚岩となって展開したい。

## 学校教育目標

### よく考え進んで学ぶ子供

- 他人の意見をよく聞き、自分の考えと比べながら、進んで発表し学習に取り組むことができる。
- 文化遺産や歴史を大切に受け継ぎつつ、意欲的に新しいものを見つけ作り出していくことができる。
- 問題意識を持ち、よく考え判断し、自分の考えをわかりやすく伝えることができる。

### 明るく心の豊かな子供

- 相手を大切にし、多様な考えを認め尊重することができる。
- きまりを守り、よりよい学校生活を考え行動することができる。
- 相手のことを考え、気持ちのよい挨拶やふさわしい言葉遣いができる。

### じょうぶでたくましい子供

- 生命の大切さを自覚し、常に安全に気を付けて明るく生活することができる。
- 協力して最後までねばり強く物事をやり遂げることができる。
- 進んで体を動かし、健康を維持することができる。

## 目標とする子供の姿

# 各教科等の目標（資質・能力）を確実に身に付けた子

## 教科等横断的な資質・能力

※令和4年度末に全職員の意見を基に見直し設定しました。

### 【知識・技能】

A 基礎的な言語力【読・書・聴・話】（重点：正しい読み書き）

### 【思考力・判断力・表現力】

B 自らの言葉で表現できる力（重点：条件に応じて）

### 【学びに向かう力・人間性】

C 目的・目標を意識する力（重点：ゴールを意識）

D 自ら学びを計画し、やりぬく力

## 目標とする学校の姿

- ★ 安心・安全・清潔で過ごしやすい学校
- ★ 笑顔があふれ、自らあいさつを交わし合える学校
- ★ 保護者や地域と共に子供を育てる学校

## 目標とする教師の姿

- ★ 自ら研修に励み、授業改善に取り組む教師
- ★ 子供に寄り添い、共に成長する教師
- ★ 働き方を意識し、組織的に（共に）取り組む教師

重点キーワード **「目標（資質・能力）に正対した授業」**

**「正しい読み書き」** **「条件に応じて」** **「ゴールを意識」**

方策1 確かな学力の育成プラン

最重点プラン

実態・課題

- 【R4】『全国学力調査』平均正答率（国58%、算55%）、「読解力」「条件に応じ説明する力」「必要な情報を見つける力」「数学的に説明する力」「漢字の読み書き」に課題が見られた。下位層36%（算数）。
- 【R4後期】単元テスト2観点全学年得点率（国語79%、算数78%）
- 【R4】『CRT』2観点（知・技と思・判・表）得点率（1年国64%算64%、2年国67%算61%、3年国57%算55%理64%、4年国58%算48%理63%、5年国60%算47%理67%英54%、6年国62%算61%理64%英62%） 2観点ともに努力が必要な児童が多くみられる。
- 【R4後期】『改善の方策①～⑧』職員自己評価達成率58%。
- 【R4後期】『学力向上に関する学校評価アンケート』達成率：保護者71%、児童78%。
- 全教員が授業公開を行うとともに、授業研修会を開催し、授業改善の取り組みを推進している。
- 「資質・能力に応じた学習展開」や「授業の基本構想」を設定し全校統一取り組みを開始意識した。

数値目標

- 【R5】『全国学力調査』平均正答率65%以上。弱点項目の向上。下位層25%以内（算数）。
- 【R5】『各単元末テスト』平均正答率85%以上。
- 【R5】『CRT検査』平均正答率70%以上。
- 【R5前後期】『改善の方策①～⑧』職員自己評価達成率80%以上。
- 【R5前後期】『学力向上に関する学校評価アンケート（保護者・児童）』達成率80%以上

改善の方策

- ① **学習指導要領に示された目標（資質・能力）が確実に育まれる授業を行う。** ※研修・教務 **★重点**  
 ★学習指導要領は教師の教科書 ★目的・目標を明確に児童に示す ★目標に正対した授業（活動、手だて、評価、習熟発  
 展問題、振り返り） ★「目標に正対した授業か、目標が確実に育まれたか」を子供の姿を通して見取る（校内研修）
  - ② 「高静小の資質・能力」を意識した教科等横断的指導を日常的に行う。 ※研修・教務  
 ★教育課程（日常）への落とし込み ★重点3つ ★評価（年2回） ★学級経営案や各種計画への反映とPDCA
  - ③ **主体的・対話的で深い学びによる授業改善を行う。** ※研修 **★重点**  
 ★学習過程のタイムマネジメント ★学びを見取る目 ★研修テーマ実践 ★個別最適な学びと協働的な学びの一体的  
 な充実 ★学びの自己調整力の育成 ★「わからない」が言える子供、学級 ★新しいかたちの学びの授業力向上推進事業
  - ④ 「話す・聞く・読む・書く」の基礎・基本を定着させる指導を行う。 ※研修・教務  
 ★全教育活動における重点指導 ★正しい読み書きの指導を重点 ★全校朝読書
  - ⑤ 個の特性や学びの状況に応じた個別最適な学びを充実させる。 ※子供支援・教務・研修・推進教師  
 ★放課後等補充学習 ★全ての子が学びやすいUD教育推進 ★合理的配慮 ★少数指導（習熟度・興味関心別等）充実
  - ⑥ **ICTを活用した授業を推進する。** ※研修・教務・推進教師 **★重点**  
 ★タブレットを活用した授業推進（主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びのツール） ★プログラミング ★MEXCBT活用
  - ⑦ 「高静小の学習ルール」を徹底し、落ち着きとメリハリのある授業を行う。 ※教務・指導  
 ★全学級共通指導 ★毅然とした指導（威圧的な指導ではなく、ぶれない指導）
  - ⑧ **各種調査・テストに数値目標を定め、結果分析を基に課題分野を重点指導する。** ※研修・推進教師 **★重点**  
 ★課題の共通理解と授業改善の具体化と評価（過去問題活用等） ★全教員の組織的取組（自校採点、結果分析、重点設定）
- ◎各職員が考えたオリジナルプラン

## 方策2 健やかな心身の育成プラン

### 実態・課題

- 【R4. 11月】『いじめアンケート』において「いじめはしてはいけない」の回答率90%。
- 【R4】『新体カテスト』において課題があった「跳躍力」「全身持久力」が少しずつ改善されている。
- 【R3】異学年間の交流をすすめるために「たてわり班活動」を開始した。
- 【R3】高学年の委員会活動全員参加を保障するために、新たな委員会活動が開始した。
- 明るく伸び伸びした児童が多い。また、生徒指導上の大きな問題が少なく落ち着いている。
- 登校しぶり児童への組織的対応が求められている。
- 【R4後期】『改善の方策⑨～⑯』職員自己評価達成率75%。
- 【R4後期】『心身の育成に関する学校評価アンケート』達成率：保護者87%、児童90%。

### 数値目標

- 【R5】『いじめアンケート』において「いじめはしてはいけない」の回答率100%。
- 【R5】『新体カテスト』において苦手2種目の向上。
- 【R5前後期】『改善の方策⑨～⑯』職員自己評価達成率80%以上。
- 【R5前後期】『心身の育成に関する学校評価アンケート（保護者・児童）』達成率80%以上。

### 改善の方策

- ⑨カウニングマインドにより、すべての子供が安心して生活できる学校をつくる。【※指導】 ★重点
- ★受容的・共感的な姿勢
  - ★「ほっと」の年2回全校取組
  - ★あたたかな言葉と表情
  - ★体罰や暴言は絶対に許さない
- ⑩日常的に安全点検、整理整頓、清掃を行い、楽しく気持ちよく過ごせる環境をつくる。【※指導】
- ★毎月の安全点検
  - ★清掃活動充実
  - ★落書き等を見逃さない
  - ★教室、職員室の整理整頓
  - ★休み時間共に遊ぶ
- ⑪健康に気を付け、自他の命を大切にすることを繰り返し指導する。【※指導・教頭・主幹】
- ★交通安全指導の充実（日常、特設の工夫）
  - ★「早寝、早起き、朝ごはん」繰り返し指導（生活リズム自己チェック）
  - ★食育の充実
  - ★コロナウイルス感染予防対策の徹底
  - ★避難訓練の工夫（予告なし訓練、津波想定訓練）
- ⑫教職員が手本を示し、気持ちの良い挨拶、場に応じた言葉遣いを指導する。【※指導】
- ★率先垂範（教職員が手本を示す挨拶、言葉遣い）
  - ★児童会の具体的取組
- ⑬道徳教育の充実により、違いを認め、いじめは許さないことを徹底指導する。【※指導】
- ★いじめ未然防止（いじめは許さないを100%に）
  - ★多様性（みんなちがって みんないい）の指導
  - ★別葉を活用した道徳教育の推進
  - ★考え議論する道徳の時間の充実
  - ★道徳教育重点内容項目複数回指導
  - ★参観日での道徳科授業公開
  - ★情報モラル教育充実
- ⑭異学年等による活動の充実と、全教職員で児童を育てる意識を向上させる。【※指導】
- ★縦割り班活動の充実
  - ★高学年全員による委員会活動
  - ★学年主任を中心に学年間・異学年間の報連相充実
  - ★学級・学年集団活動の充実
- ⑮特別支援教育、通級教室、登校しぶり等の計画的指導や各種連携体制を充実させる。【※主幹・子供支援】 ★重点
- ★コーディネーターを中心とした組織的取組
  - ★「個別の教育支援計画・指導計画」の前後期PDCAサイクル
  - ★通級指導の整備（町教委と連携）
  - ★登校しぶり、困り感のある児童への組織対応（関係機関との連携）
- ⑯苦手種目の克服など体力向上の日常的取組を充実させる。【※指導】
- ★苦手2種目（跳躍力・全身持久力）の克服に向けた取組徹底
  - ★新体カテスト全学年全種目実施と分析
- ◎各職員が考えたオリジナルプラン

## 方策3 組織・働き方の改革プラン

### 実態・課題

- 【R4：4～12月】『働き方ガイドライン（月残業45時間以内）』達成率51%、平均残業時間47時間。（※全国公立学校平均98時間 2021名古屋大学調査）
- 残業時間の個人差が大きい。（最大1日あたり3時間以上の差）
- ICT、校務支援システムの導入による業務の時間短縮が進みつつある。
- 【R4後期】『改善の方策⑰～⑳』職員自己評価達成率74%。

### 数値目標

- 【R5】『働き方ガイドライン（月残業45時間以内、年間360時間以内）』達成率100%。
- 【R5】『定時退勤日』を月2回確実に実施。
- 【R5前期】『改善の方策⑰～⑳』職員自己評価達成率80%以上。

### 改善の方策

- ⑰学校運営方針や子供の情報等を常に共有し、組織的な対応を行う。【※教頭・主幹・指導】
    - ★ヒヤリハット ★組織的生徒指導 ★決めた事の徹底 ★校務運営委員会や学年主任委員会の活用
  - ⑱自分にできることは力を存分に発揮し、できないことは周りの力を借りる。【※全員】
    - ★お互い様精神 ★各自の持ち味 ★効率的な仕事（校務支援システム、ICT） ★困り感の共有と組織対応 ★業務平準化
  - ⑲子供によいと思うことは新たにチャレンジし不要なことは精選する。（安易な前年度踏襲をやめる）【※全員】
    - ★「子供のためになっているか」を判断基準に精選 ★諸会議の精選・スリム化 ★働き方改革プロジェクトチーム
  - ⑳互いに声を掛け合い、居心地の良い職員室を一人一人がつくる。【※全員】
    - ★職員間の「あいさつ」「礼儀」 ★親睦会 ★学校・組織のために自分は何ができるか
  - ㉑メンターとメンティーが共に成長できる研修を充実させる。【※主幹・研修】
    - ★3つのメンター研修 ★初任段階教員育成計画
  - ㉒自分のキャリアステージを見据え、主体的な研修を充実させる。【※研修】 **★重点**
    - ★自己向上意識、プロとして ★授業で勝負できる教師になるために ★研修成果の交流 ★一人最低1回研修会参加
    - ★人事評価シート具体目標とのリンク
  - ㉓学校教育活動の向上につながる学校評価を充実させる。【※校長・教頭・主幹】
    - ★グラウンドデザインとのリンク ★年2回評価改善 ★オンライン学校評価
  - ㉔法令遵守に努め、社会の常識は、学校の常識として自らの行動で示す。【※全員】
    - ★法令遵守研修 ★服務規律 ★相手意識（電話、来客、服装）
- ◎各職員が考えたオリジナルプラン

働き方改革の主な取組 ※別紙『高静小学校働き方改革12』

- ※出退勤時間・日課表の変更 ※定時退勤日（月2回） ※児童玄関開錠時刻（8：00）継続
- ※勤務割り振りの積極的活用 ※勤務時間管理と周知 ※夏冬休みの学校閉庁日設定
- ※年休を取りやすくするための会議曜日変更（金曜から木曜へ） ※朝の職員打ち合わせ廃止（週1回放課後へ）
- ※不要な取組見直し（『高静の子』『家庭地域訪問』廃止『学級経営案を人事評価シートへ一本化』など）
- ※「働き方改革プロジェクトチーム」 ※オンライン出欠確認 ※HP、さくらメールを活用した周知
- ※オンライン学校評価 ※校務支援システムの活用

## 方策4 開かれた学校の推進プラン

### 実態・課題

- 【R4後期】『家庭学習目標時間（学年×10分以上）』達成率76%。提出率91%。
- 【R2.12.16】学校運営協議会を設立した。年間3回実施。（経営方針承認、各問題熟議等）
- 【R2】幼稚園保育所との授業参観や懇談などの連携開始。
- 【R3】中学校との連携開始。合同研修会、授業交流など。
- 【R3.2】新しいホームページの運用を開始した。（閲覧数1日あたり約80～100回）
- 【R4.11】創立150周年記念式典開催
- 【R4後期】『改善の方策⑳～㉓』職員自己評価達成率55%。
- 【R4後期】『開かれた学校に関する学校評価アンケート（保護者）』達成率88%。

### 数値目標

- 【R5】『家庭学習目標時間（学年×10分以上）』達成率80%以上。提出率100%。
- 【R5】中学校ブロック研修3回以上実施
- 【R5】HP閲覧数1日あたり100回以上
- 【R5】学校運営協議会3回開催。熟議や経営方針協議・承認。
- 【R5前期】『改善の方策⑳～㉓』職員自己評価達成率80%以上。
- 【R5前期】『開かれた学校に関する学校評価アンケート（保護者）』達成率80%以上。

### 改善の方策

#### ㉔PTAおよび地域関係機関、学校運営協議会等との連携を密に行う。【※校長・教頭・主幹・教務】

- ★学校運営協議会との連携（方針承認、地域と共に子供を育成、各種協力依頼など）
- ★PTA等協力依頼と連携（アウトメディアチャレンジ、読書推進、生活リズムなど）

#### ㉕学校や学級の考えを通信・ホームページ等で発信し、理解と協力を得る。【※教頭・主幹・各分掌】

- ★相手意識 ★魅力あるHPの日常更新 ★さくらメール活用 ★基本情報の可視化（高静小ガイド保存版パンフレット）
- ★災害時ガイドラインと引き渡しシステム開始

#### ㉖地域と連携した学習活動を推進させる。【※教務】

- ★地域人材や教材の活用 ★総合的な学習の時間における「ふるさと教育」の探究的な学びを充実 ★馬産地教育（ライディングヒルズ全学年活用等）

#### ㉗全ての教員が自らの授業を積極的に公開する。（研究授業、各訪問、参観日、その他）【※研修・教務】

- ★全員授業公開 ★授業参観日 ★管理職授業観察 ★公開研究会の実施（11月） ★外部助言者活用

#### ㉘学校と家庭の学びをつなぐ「家庭学習の質と量」を確保するための手立てを充実させる。【※研修・推進教師】

- ★自ら学習の仕方を振り返る家庭学習システム（学習カード） ★強化週間（提出率アップ） **★重点**
- ★ふりかえり宿題デー ★定着を図るための宿題の質と量 ★eライブラリ、MEXCBTの活用

#### ㉙幼保中や町内他小学校との情報交流を密に行い、それぞれとの連携を深める。【※教頭・主幹・教務】

- ★スタートカリキュラムの活用 ★授業参観・実態交流（幼保中） ★中学校区の連携強化（授業改善、生徒指導、家庭学習などに関するブロック研修会） ★キャリアパスポート活用 ★学校統合準備（桜丘小と連携）

#### ㉚各職員が考えたオリジナルプラン